
夢想家

森原堤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢想家

【Nコード】

N3401I

【作者名】

森原堤

【あらすじ】

三匹の馬を手綱で操る天の神は雨を降らして田に作物をはぐくませる、だが地上ではどうだろうか？ その農作物を育てる肥やしとなるものがただの遊び道具になっているのだった。

そんないまどきのカップルが惚れたはれたの一場面を見せている。心境小説である、彼氏は彼女に対する愛情は変わっていない。だが、彼女は彼氏の本当の気持ちを知りたくつい強い口調で難詰してしまう、彼らは真に理解しあうことができるのであろうか？

うんちが漏れそうな時、僕は下唇をかむ。よけいきばる。だが、もれない。別腹だから。入るところが違えば、出るところも違うはずだ。けどどうでもいい。そんなこと。

朝から雨だった。じつとりと、ジャボジャボと雨滴が空を踊った。僕は下唇をかみしめながら、ここ数日生きていた。生きづらかった。うんこが出そうだったのだ。下唇からは大量の血が流れつつける。いい血だ。赤くてほんのり甘みがあつて。シュガーレスとはこのことだろう。というか全然、砂糖が入っていないんじゃないか。そんな疑問を胸に一物、僕は空を三匹の馬で翔ける。天の神なんだ、僕は。雨を降らせるのが役目だ。さあ僕のとこまでこい！ 逃げも隠れもせんぞ！ 一、二、一、二、二、ヒンズースクワットして便意をこまかさないでくれ。お願いだから。気をちらしたりせず、前向きに歩んでいこう。

僕らの目がなぜ正面に付いているのか。それは、それはわからな。い。わからなくていい。だが、僕の目が黒いうちは。僕の目が黒いうちは。

机の周りをぐるぐる回って、休み時間、そんなことを考えながら、小学生の頃、うんこを我慢したことがあった。

「ねえ、今、何考えてるの？」

「昔のことさ」

「元カノのことでしょ？」

美香がキリッとしたまなこで僕をにらみながら訊ねる。

「違う、違うさ」

「じゃあ何よ？」

「今は言えない」

ヘラヘラ、ヘラヘラ笑いながらうんこを壁に投げつけていた。ペツタリと壁にひつついて、ゆつくりとはがれ、地面に落ちる。それがおもしろくて何度も何度も繰り返した。いい汗をかいた。それが一年前の僕だった。いい思い出。いい匂い。ぷ、ふう〜。

「ねえ、ねえ、何考えてるの！ 楽しそうにほほえんで！」

美香の叫び声で僕は我にかえった。

「ほら、また元カノのこと考えたんでしょ！」

「……美香のことだよ。……将来のことさ。美香と僕のすばらしい未来のことだよ」

彼女はほんのり頬を染めながら、上目遣いで、

「ほ、ほんと？」と、言い、口ごもった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3401i/>

夢想家

2011年1月12日22時18分発行